

# 年始の挨拶

沖縄県宗務事務所長  
所長 中岡 順 忍



# おきなわ

《2025 冬・第125号》

浄土真宗本願寺派  
発行 沖縄県宗務事務所  
発行人 中岡 順 忍

〒900-0005  
沖縄県那覇市天久2-18-2  
電話 (098) 860-7009  
ファックス (098) 860-7469  
mail ameku2182@yahoo.co.jp

令和7(2025)年の新年にあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

沖縄特区内寺院の皆さまには、本願寺沖縄別院の護持発展並びに沖縄特区の宗務推進に各段のご協力を賜っておりますこと、誠に有難く厚くお礼申し上げます。

さて、去る12月1日に、沖縄別院「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」並びに「本願寺沖縄別院設立20周年記念法要」を修行いたしましたところ、遠近各地から多くのご参拝をいただき、盛大にお勤めすることがで

きました。

これもひとえに、仏祖の御加護とご協力ご協賛いただいた皆さまのお蔭と深く感謝申し上げます。

今日、コロナ禍の影響を受け、私たちを取り巻く社会情勢や生活環境は大きく変化しました。

また地球温暖化による気候変動により世界各地で災害が発生しています。

さらに、紛争や戦争により尊いのが脅かされる地域があり、経済格差や貧困問題など様々な課題を抱えている国が存在しています。

今から2500年前、釈尊は人生のありのままの姿を見極めること(如実知見)によつて、老・病・死の苦悩の原因は無明(煩悩)であると見抜き、それを解決する道を完成されました。

そしておよそ800年前、親鸞

聖人は、私たち人間とは自己中心的な思い(煩悩)からどうしても抜け出ることのできない存在であると気づかれ、誰ひとり取り残すことのなく尊い安心を与えようとはたらし続けている阿弥陀如来の願いに出遇われました。そしてそのことを私たちの生き方としてお示しくくださったのが親鸞聖人です。

私たちは、この尊いみ教えてある阿弥陀如来の智慧と慈悲を深く受けとめ、次の世代に伝えていくことが大切なことだと思います。

そして、世界中の全ての人が互いに心を通い合わせて生きていける社会の実現に向けて邁進したいと存じます。



# 沖縄別院 除夜会

一年を振り返る長蛇のお参り  
鐘をつき、ホットドリンクであたたまる

昨年末の12月31日(火)、沖縄別院本堂にて午後11時30分より除夜会を修行し、約600名の方に参拝いただきました。

除夜会の法要後、中岡順忍輪番が新年を迎えるにあたり一年を振り返って挨拶し、除夜の鐘を撞き始めました。つづいて、参拝の皆さんが思い思いに一年を振り返って鐘を撞き、午前2時頃には終了となりました。

境内では、例年と同様に各門徒の皆さんにお手伝いいただき、温かい飲み物や参拝記念のカレンダー、お子さんにはお菓子の配布をしていたきました。



多くのお参りがあり、法要中に本堂に入りきれない人も。法要後、順にお参りし、鐘をついていただいた



# 2024 年末の行事

# 久米島布教所

賑やかに恒例もちつき大会  
除夜会、そして除夜の鐘

久米島布教所では12月29日(日)にもちつき大会をしました。

搗き手には、一昨年と同様今回も航空自衛隊久米島分屯基地の皆さんにご協力いただきました。

搗いたお餅で鏡餅を作つて年末年始と仏さまにお供えし、また、皆でおいしくいただきました。

近隣の老人ホームにも鏡餅をお配りしました。

31日には約200名の参拝者があり、皆さんと共に去る一年を振り返り、新年に思いをはせながら除夜の鐘を撞きました。



小さな子どもから大人まで楽しんだ「もちつき大会」。自衛隊の方々力強いもちつきは必見





導師・中岡輪番、特区内寺院僧侶が出動し、雅友会による雅楽のなか、法要が勤まった



菊城法要委員長の挨拶

帰敬式受式者代表で帰敬文を拝読する源河さん



釋師による記念講演

ころとする生活に勤しんでいく「いす」と話されていました。帰敬式後、慶讃法要の記念行事として募集した「非戦・平和」に関する作文・絵画コンクール最優秀賞受賞者の表彰を行いました。

作文部門最優秀賞の前山田ジャズミシライトさん、絵画部門最優秀賞の久場路那さんには、中岡輪番から表彰状と記念品が贈呈されました。それぞれの部門の応募作品は2月いっぱいまで、沖縄別院納骨堂内に展示していますので、お参りの際にぜひご覧ください。今年は沖縄戦終戦80年追悼法要を予定しています。詳細は決定次第お知らせしますので、ご協力をよろしく願います。

## 慶 讃 法 要

### 沖縄別院設立20周年記念法要

12月1日(日) 本願寺沖縄別院本堂において、

「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」

「本願寺沖縄別院設立20周年記念法要」を修行しました。

この法要は宗祖親鸞聖人が誕生されて850年、浄土真宗を開かれて800年、そして沖縄別院が設立されて20周年となることを記念し、スローガン「ご縁を慶び、お念仏とともに」、法要テーマ「伝える、つなぐ、命どう宝」(「命どう宝」は「命こそ宝」の意味)として行われました。

午前の部・午後の部に分け、各部共に中岡順忍輪番の挨拶に始まり、記念布教に吉村隆真師(本願寺派布教使・熊本教区託麻組良寛寺住職)、慶讃法要と続き、記念講演では釋徹宗師(相愛大学学長)にご講演いただきました。最後に

菊城元明法要委員長の挨拶をもって閉会となりました。

法要は中岡輪番が導師を務めました。午前の部では列衆として菊城法要委員長(真常寺)が出動され、結果として宇垣哲さん(浄光寺)、高木正敏さん(八重山本願寺布教所)、角田哲哉さん(法合寺)、大工廻朝洋さん(城徳寺)、島裕太さん(浄善寺)が出動されました。午後の部には列衆として菊城法要委員長(真常寺)が出動され、結果として宇垣哲さん(浄光寺)、高木正敏さん(八重山本願寺布教所)、大工廻朝洋さん(城徳寺)、久保田憲人さん(来恩寺)、登川悟さん(浄願寺)



吉村師による記念布教

が出動されました。この法要に向けて毎月一回行っている勤式練習会で習礼を重ねて出仕されました。勤式練習会でご指導いただいた谷口智行勤式指導員(誓願寺)は、会役者として法要を取りまとめてくださいました。また、鹿児島教区雅友会有志の皆さまに雅楽の演奏をしていただきました。午前の部の法要の後には、沖縄別院では初めての帰敬式を実施しました。帰敬式とは、阿弥陀如来・親鸞聖人の御前で浄土真宗の門徒としての自覚をあらたにし、お念仏申す日暮らしを送ることを誓う最も大切な儀式です。

帰敬式には23名の受式申し込みがあり、本山から御手代をお迎えし、係員が帰敬式の流れを説明した後に照明を落とし、薄暗く厳かな雰囲気の中、帰敬式を執行いただきました。

受式した方は、「厳かに帰敬式を受式し、法名をいただいたことで、浄土真宗門徒としての自覚が芽生えました。南無阿弥陀仏を拠りど



帰敬式